

令和 3 年 11 月 25 日

三重県知事 へ

住所 三重県松阪市八太町614番地

事業計画者 氏名 株式会社 UMEDA
代表取締役 梅田 晃平
電話番号



令和3 年 4 月 20 日付けで提出した事業計画書について軽微な変更をしたので、三重県産業廃棄物の適正な処理の推進に関する条例第29条第3項の規定により、次のとおり届け出ます。

	変更前	変更後
変更の内容	別紙のとおり	別紙のとおり
変更の理由	協議調整の結果、事業計画に軽微な変更が生じたため。	
変更年月日	令和3年11月18日	

(規格 A 4 版)

備考

- 1 各欄にその記載事項のすべてを記載することができないときは、同欄に「別紙のとおり」と記載し、別紙を添付してください。
- 2 変更に係る書類及び図面を添付してください。



別紙（積替え保管）

変更前	変更後
<p>〔維持管理に関する事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飛散・流出・悪臭の防止」について廃棄物の種類ごとに具体的な対策が欠如していた ・住友重機製(SH135-7B)は積替え保管では使用しない記載となっていた <p>〔生活環境影響調査書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「騒音及び振動」において、重機による騒音及び振動の影響が軽微であるため、破碎機による影響をもって施設全体の騒音・振動値を評価した旨記載が不足していた <p>〔廃蛍光ランプ専用容器写真〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃蛍光ランプ専用容器の写真がなかったため、具体的にどのような容器を使用するか明確でなかった。また、容器の長さの記載がなかったため、どの長さの廃蛍光ランプまで収納できるかが分からなかった <p>〔2槽式マス図面〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画上、2槽マスは設置しないこととしていた ・2槽式マスを設置しない計画だったので、降雨量と流量計算を行っていなかった <p>〔排水経路図（図面②）〕</p> <p>排水経路に一部誤りがあった</p> <p>〔公図現況重図（図面⑤）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破碎施設に色分けなし ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていた 	<p>〔維持管理に関する事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飛散・流出・悪臭の防止」について、屋内ばら積み保管場所の廃棄物について常時ネット等で飛散防止措置を講ずること、屋外のコンテナについてもシートで被覆することなど具体的に対策を記載した ・住友重機製(SH135-7B)は積替え保管でも使用することを明確にした <p>〔生活環境影響調査書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「騒音及び振動」に、重機による騒音及び振動の影響が軽微であるため、破碎機による影響をもって施設全体の騒音・振動値を評価した旨記載を追加した <p>〔廃蛍光ランプ専用容器写真〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃蛍光ランプ専用容器の写真を添付することで、具体的にどのような容器を使用かが明確となった。また、容器の長さ（140 cm）を記載することにより、収納可能な廃蛍光ランプの長さまで分かるようになった <p>〔2槽式マス図面〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かいプラスチック（万が一油分が発生した場合に備えて油分も）の流出防止のため、2槽マスを設置することに変更した ・2槽式マスの能力が、降雨量に見合うものであることを示す降雨量と流量の計算を行った <p>〔排水経路図（図面②）〕</p> <p>再調査の結果、排水経路を図面のとおり修正した</p> <p>〔公図現況重図（図面⑤）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破碎施設に、積替え保管施設については紫色、破碎施設については緑色に色分けした ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていたものを明確化した

〔施設全体配置図（図面⑥）〕

- ・積替え保管施設と破碎施設に色分けなし
- ・動線と2槽マスの表示なし
- ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていた

〔施設求積図（図面⑦）〕

- ・積替え保管施設と破碎施設に色分けなし
- ・廃棄物の受け入れから処理、保管、搬出に至る動線の表示なし
- ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていた
- ・積替え後の保管場所である廃プラスチック類、紙くず、繊維くず保管場所の仕切りがなかった

〔騒音・振動測定位置見取図（図面⑧）〕

- ・積替え保管施設と破碎施設に色分けなし
- ・廃棄物の受け入れから処理、保管、搬出に至る動線の表示なし

〔処理フロー図〕

- ・処理フローの矢印の向き、処理先に誤りがあった。「屋内保管」から「破碎」に矢印があった。
- ・積替え保管の屋内保管の記載（m³の部分）に誤りがあった
- ・積替えと保管の部分が不明確であった。
- ・搬出の際の運搬業者を明確にしていなかった

〔施設全体配置図（図面⑥）〕

- ・積替え保管施設と破碎施設に、積替え保管施設については紫色、破碎施設については緑色に色分けした
- ・動線、2槽マスを図面内に記入
- ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていたものを明確化した

〔施設求積図（図面⑦）〕

- ・積替え保管施設と破碎施設に、積替え保管施設については紫色、破碎施設については緑色に色分けした
- ・廃棄物の受け入れから処理、保管、搬出に至る動線の表示を記入
- ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていたものを明確化した
- ・積替え後の保管場所である廃プラスチック類、紙くず、繊維くず保管場所の仕切りについて新たに設置することとした

〔騒音・振動測定位置見取図（図面⑧）〕

- ・積替え保管施設と破碎施設に、積替え保管施設については紫色、破碎施設については緑色に色分けした
- ・廃棄物の受け入れから処理、保管、搬出に至る動線の表示を記入

〔処理フロー図〕

- ・処理フローの矢印の向き、処理先に修正を加えた。屋内保管の木くずの処理先を㈱司津R工場破碎施設と追記した。「屋内保管」から「運搬(㈱UMEDA)」に矢印を指向した
- ・積替え保管の屋内保管の記載（m³の部分）に誤りがあり、木くず(27 m³)、廃プラ類、紙くず、繊維くず(72 m³)に修正した
- ・積替えと保管が不明確であった部分を明確化した
- ・搬出の際の運搬業者を㈱UMEDAと表示した

(別紙)

維持管理に関する事項 (積替保管施設)

維持管理 等 の 計 画	作業方法	作業人数 3人 (内訳: 選別作業2人、オペレーター1人) 作業時間 8:00~17:00 (休憩1時間含む) 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	廃棄物の確認	マニフェスト、展開検査により性状確認します。 計量は計量器にて行います。 腐敗性有機物が付着し、著しく汚染されたもの、受入可能品目以外のものについては、受け入れない。 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	廃棄物の受入の方法	保管積み替え施設において廃棄物を車両から下ろし、廃棄物の種類ごとに所定の位置の保管場所へ移動させます。移動はフォークリフトで行います。 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一 図面のとおりに)
	廃棄物の積替え方法	手選別及びフォークリフトを用いて積み替え作業を行います。 主に重機 (2.5 t) を用いて選別しやすいように廃棄物を展開します。 廃蛍光ランプについては専用容器ごと運搬・保管・搬出する。なお、割れたものは取り扱わない。 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添 のとおり)
	飛散・流出 悪臭の防止	方法 建屋内で作業を行う。また日常の清掃等により飛散・流出を防止する 廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、木くず、金属くず、廃蛍光ランプについては、建屋内で保管します。このうち、金属くず、廃蛍光ランプについては、コンテナで保管します。建屋内ばら積み保管となる廃棄物のうち、飛散しやすい紙くず、繊維くずについては、常時飛散防止用ネット (またはシート) で覆い、保管場所から外に飛散しないような措置を講じます。また、清掃も徹底します。残さ、ガラスくず等、がれき類については、建屋外保管となりますが、それぞれのコンテナをシートで被覆し、雨水の流入防止・飛散・流出防止します。また、腐敗性有機物が付着したものなど、悪臭を発する廃棄物は取り扱いません。 回数 清掃 1回以上/日 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	火災発生防止	場内の火気の使用を禁止する。 小型消火器を設置する。 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一 施設全体配置図のとおりに)
	衛生害虫等の発生防止	方法 発生が予測される場合、適宜薬剤の散布を行います。 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	騒音・振動 及び 粉じん防止	騒音・振動について、機器の日常・定期点検を徹底することで予防し、作業についても注意を払います。 粉じんについて、建屋内で作業します。また、作業時に注意を払います。 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	点検、検査の記録及び保存	記録内容 別添点検実施票により日常点検を行います。 保存 結果は定期点検結果と合わせて5年間保存します 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一 点検実施票のとおりに)

(別紙)

保有する (予定を含む) 機材	機材名	車両等の 登録番号	能力等	使用目的	備考
	フォークリフト (回転式)	該当なし	2.5 t	コンテナを移動させる 際に使用	定期点検を実施
	フォークリフト (バックン付き)	該当なし	2.5 t	廃棄物をバックンで受 け、各保管場所まで運搬 する際に使用	定期点検を実施
	住友重機製 SH75-7B	該当なし	2.5 t	廃棄物を展開し、選別し やすいようにする際に 使用	廃棄物の前処理に該当 するような行為には使 用しない 定期点検を実施
	住友重機製 SH135-7B	該当なし	4.5 t	廃棄物を破砕機(UC-75) へ投入する際に使用 積替え保管においても 使用します。	廃棄物の前処理に該当 するような行為には使 用しない 定期点検を実施

第 2 章 生活環境影響調査項目の選定

2-1 生活環境影響調査項目

破碎・選別施設における生活環境影響調査項目は、下記の表のとおりとされています。

調査項目		生活環境影響要因 生活環境影響調査項目	生活 施設排 水の排 出	施設 稼働 の	施設から の悪臭の 漏えい	廃棄物運 搬車両の 走行
大気 環境	大気質	粉じん		○		
		二酸化窒素(NO ₂)				○
		浮遊粒子状物質(SPM)				○
	騒音	騒音レベル		◎		○
	振動	振動レベル		◎		○
	悪臭	特定悪臭物質濃度または臭気 指数			○	
水 環境	水質	生物化学的酸素要求量(BOD) または科学的酸素要求量(COD)	○			
		浮遊物質(SS)	○			
		その他必要な項目	○			

これらの調査項目のうち、◎を選定項目とします。

2-2 選定した理由

(1) 騒音及び振動（施設の稼働による影響）

破碎機が稼働することにより、周辺の生活環境に影響が出ることが予想されるため、この項目を選定しました。

使用予定の重機（SUMITOMO）については、低騒音・低振動型、低排ガス、低燃費など、環境に配慮された性能を有しているものであり、また施設から敷地境界までの騒音及び振動の距離減衰及び透過損失により、重機による周辺環境への騒音及び振動による影響は軽微と考えられるため、調査対象から外し、施設全体から予想される騒音・振動値については、破碎機による影響をもって評価した。

2-3 選定しなかった項目及びその理由

(1) 大気質(粉じん)

「施設の稼働」による粉じんについては、破碎機本体及び、廃棄物展開場所が屋内であることと、粉じん発生源から道路まで31.5メートルの距離があり、さらに事業計画地周囲を高さ約2メートルのトタンにより囲むことにより、より高い防塵効果が期待できることなどから、粉じんが施設周辺の生活環境に影響を及ぼすおそれは軽微であると考えられるため、この項目を選定しませんでした。

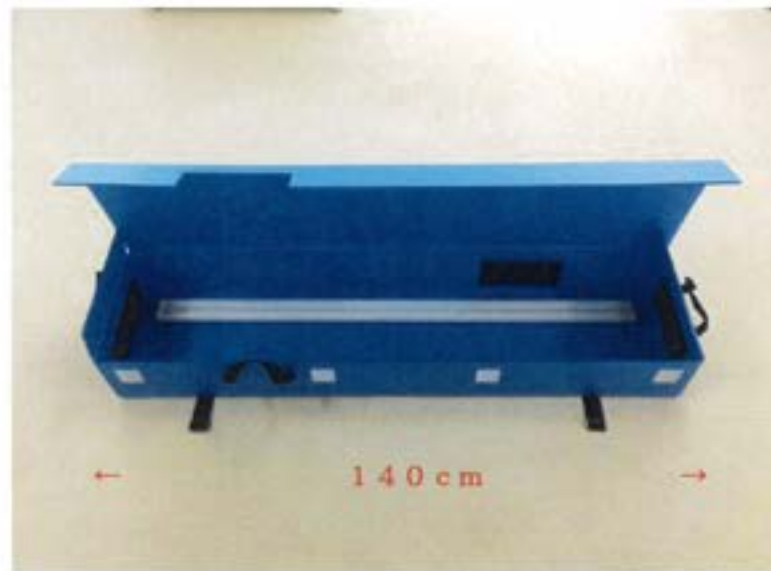
(2) 大気質 (NO₂・SPM)

「廃棄物運搬車両の走行」による排ガスの影響

廃棄物運搬車両については、「交通量が相当程度変化する主要搬入道路沿道に人家等が存在する場合」に調査の対象とされており、搬入道路（R.165）沿道付近に人家が存在しません。

また、1日の搬入台数が10t車1台ですので、この施設が稼働することによる廃棄物運搬車両の走行による排ガスの影響は、軽微であると考えられるため、この項目は選定から除外しました。

廃蛍光ランプ専用容器写真

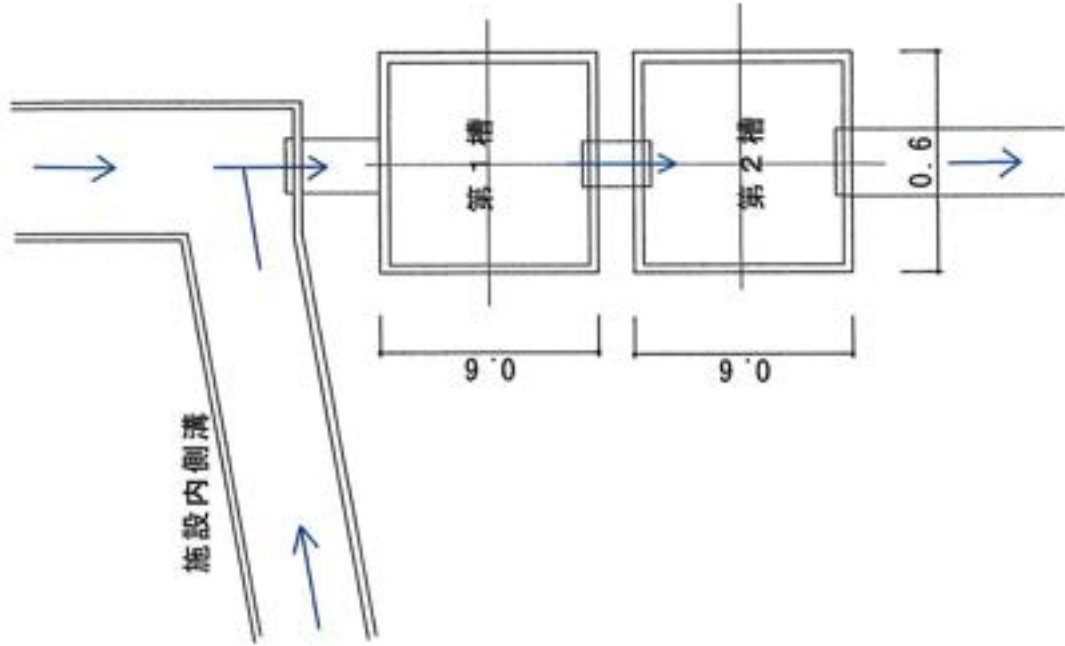


横幅：1.4 m
縦幅：0.4 m
高さ：0.25 m
容量：0.14 m³

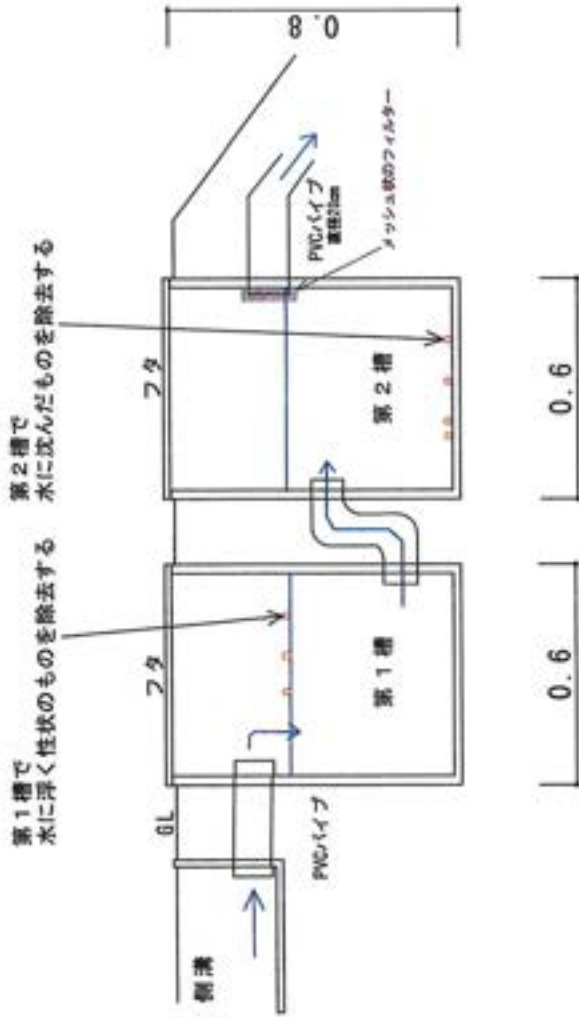
令和3年9月24日撮影
株式会社UMEDA

2槽式マス図面

平面図



立面図



(単位：m)

1時間あたりの降雨量（1時間あたりにマスに雨水が流入する量）と、マスからの1時間あたりの排水量をそれぞれ計算し、後者が前者より値が大きいことをもって、マスの機能が維持されることを示します。

(1) 降雨量の計算・・・X

事業計画地における降雨量（最大月平均）は、

$$\begin{aligned} & 273.1 \text{ [mm/24h]} \cdots \text{気象庁データに基づく} \\ & 0.2731 \text{ [m/24h]} \\ & 0.0113 \text{ [m/h]} \end{aligned}$$

事業計画地の雨量計算対象面積は、2652.6123 m²（事業計画地面積）

よって、事業計画地雨量計算対象面積における降雨量（1h）は、

$$0.0113 \text{ [m/h]} \times 2652.6123 \times 0.85 \text{ (流出係数)} \approx 25.47 \text{ [m}^3\text{/h]}$$

(2) 2槽式マスからの流量（排水量）計算・・・Q

$$\begin{aligned} Q &= A \times V \\ V &= 1/n \times R^{2/3} \times I^{1/2} \end{aligned}$$

Q=流量 [m³/秒]
A=流水断面積 [m²]
V=流速 [m/秒]
n=粗度係数 (=0.015)
R=径深 [m] (A/P)
P=流水の潤辺長 [m]
I=勾配 (分数又は少数)

$$A = 0.1 \times 0.1 \times \pi \quad P = 2\pi \times 0.1$$

$$A = 0.0314 \text{ m}^2 \quad P = 0.628 \text{ m}$$

$$R = A/P = 0.05 \quad I = 0.1$$

$$V = 1/0.015 \times (0.05)^{2/3} \times (0.1)^{1/2}$$

$$V \approx 2.84 \text{ [m/秒]}$$

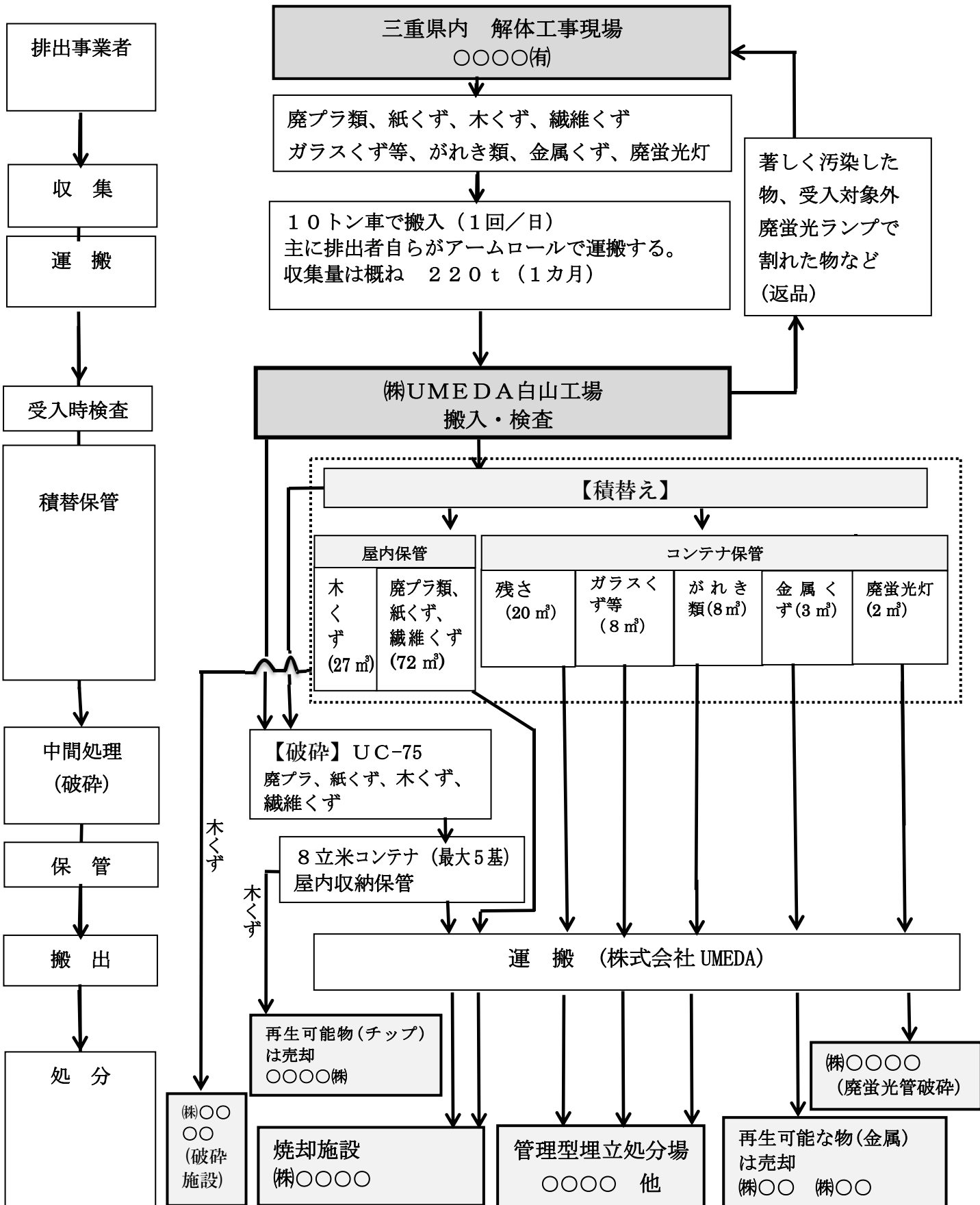
$$A \times V = 0.0314 \times 2.84 \approx 0.089 \text{ m}^3\text{/sec}$$

$$Q = 0.089 \text{ [m}^3\text{/sec]} = 5.34 \text{ [m}^3\text{/min]} = 320.4 \text{ [m}^3\text{/h]}$$

よって、

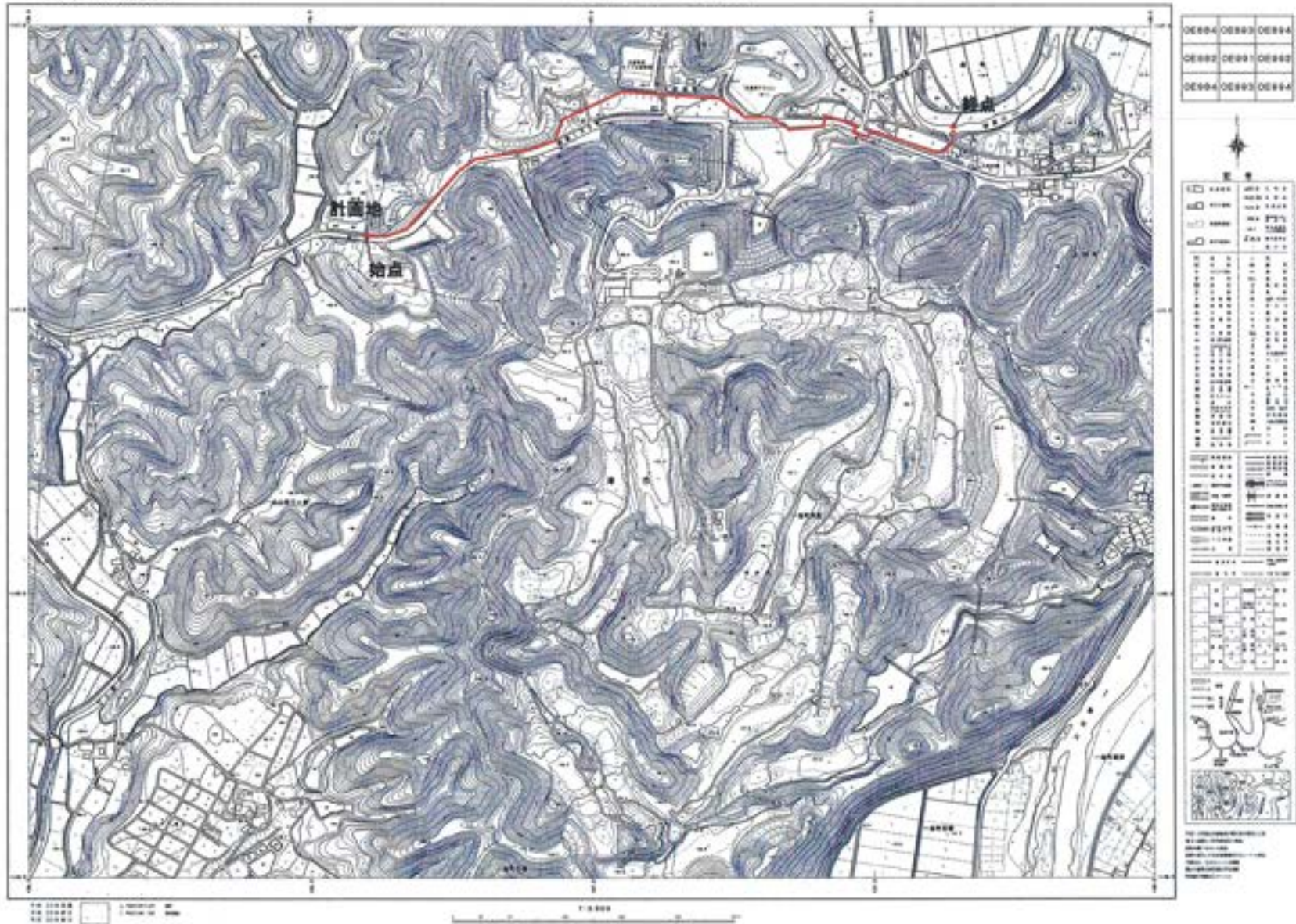
$$Q \text{ (排水量/1h)} > X \text{ (降雨量/1h)}$$

産業廃棄物処理フロー図



排水経路図

1 : 2,500地形図

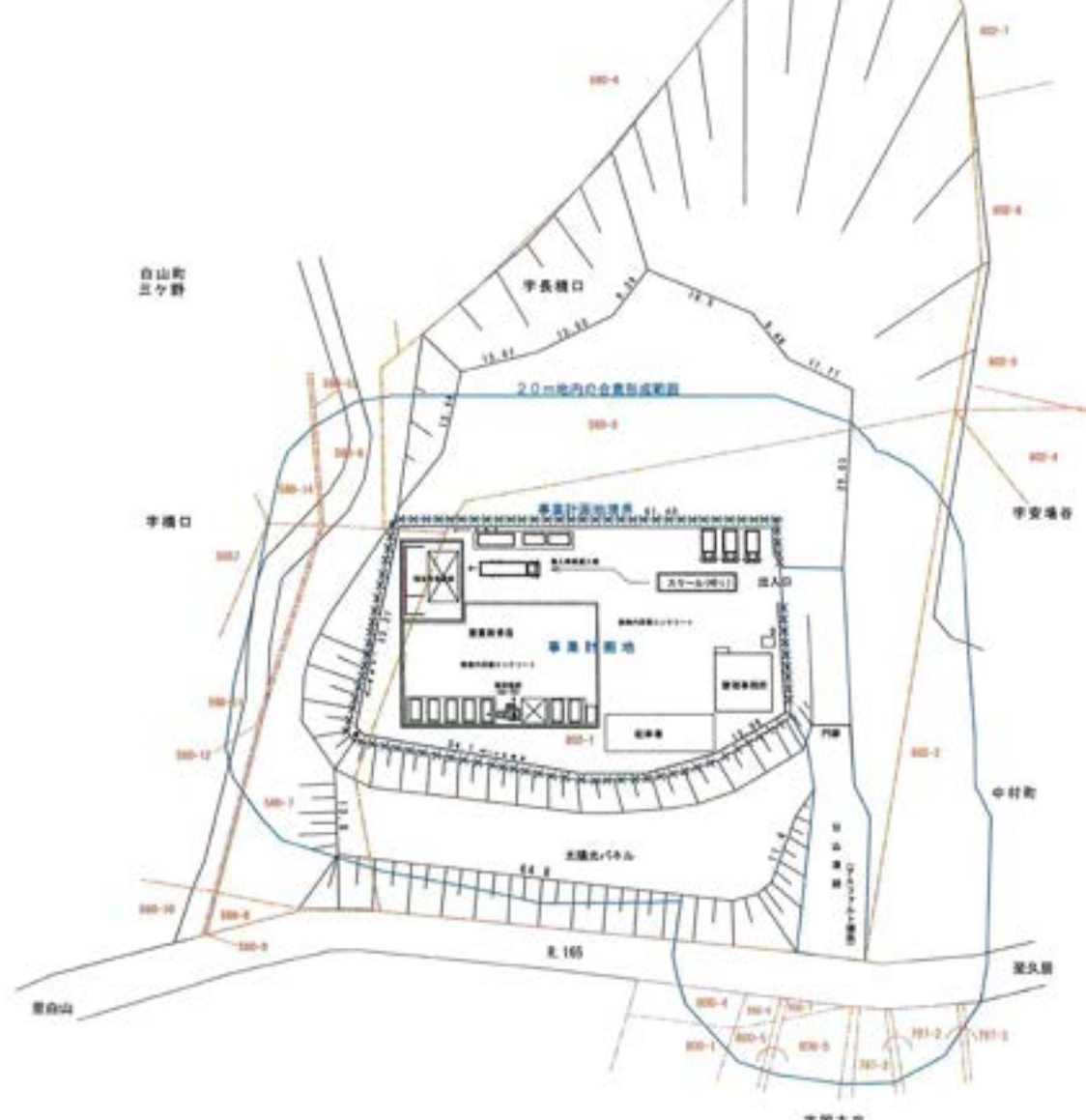


雨水の排水経路図は、始点（施設）から終点（河川）までの間に、雨水の流れを地形的・物理的に妨げるものがないことを示すことを一つの目的として作成したものであり、この図面は雨水が流れる経路について、その概要をイメージしやすくするために示したものです。
 実際の流路は天候等の諸条件、将来流路上における工事等により多少変動する場合があります。

公園現況重図



5



申請地一覧

宇長橋口	560-5	山林	2056㎡	(一部)
	560-7	山林	429㎡	(一部)
宇安場谷	802-1	雑種地	3715㎡	(一部)

隣接地一覧

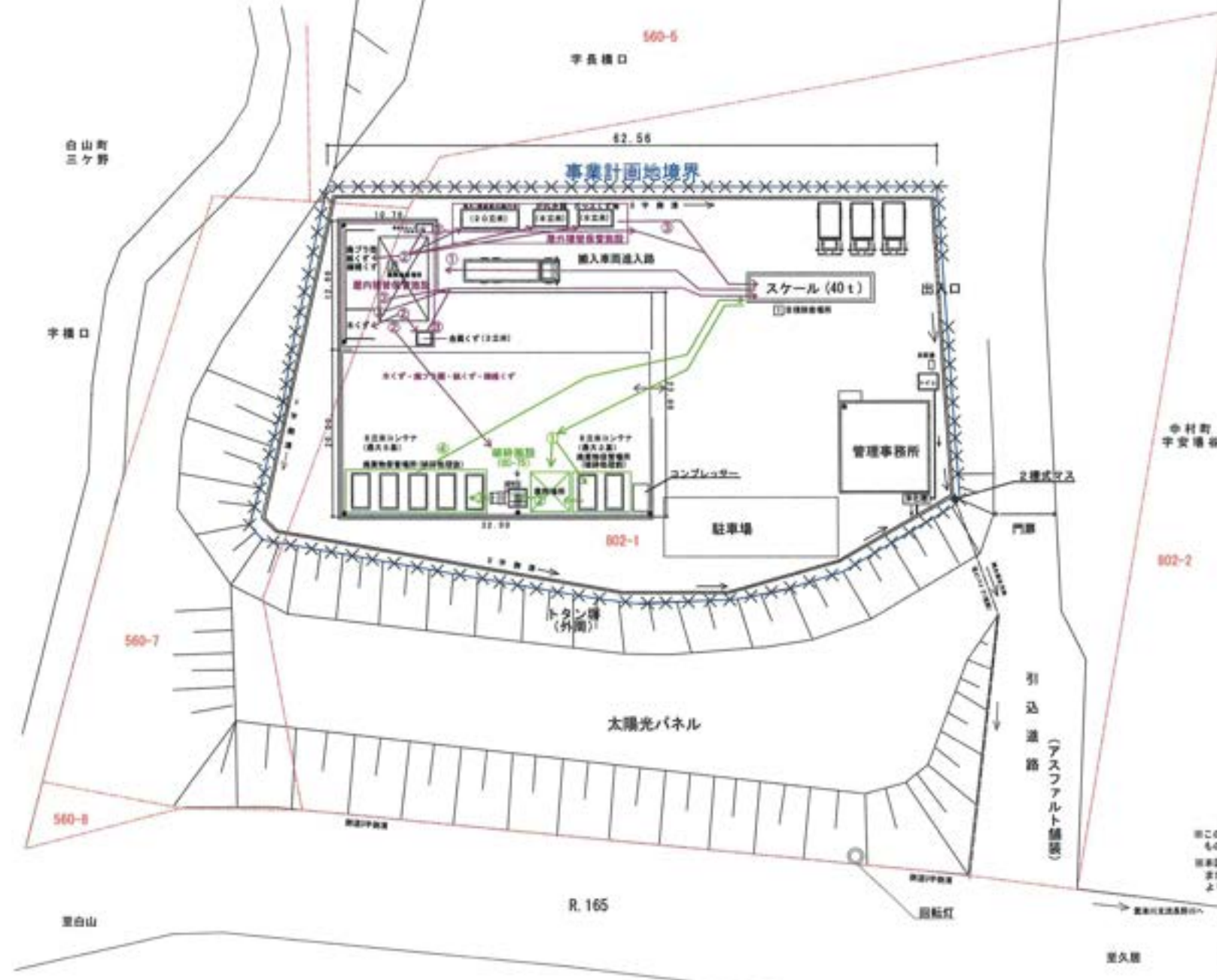
宇長橋口	560-6	山林	416㎡	
	560-11	山林	294㎡	
	560-12	山林	29㎡	
	560-13	山林	46㎡	
	560-14	山林	409㎡	
宇安場谷	802-2	山林	1983㎡	
宇国土谷	793-2	宅地	1632㎡	
	800-1	原野	167㎡	
	800-4	雑種地	434㎡	
	800-5	山林	146㎡	
	800-6	雑種地	29㎡	
	800-7	雑種地	25㎡	

保管積替施設：紫色で表示
中間処理施設：緑色で表示

※本図面は、都市計画地区の位置に定める都市計画に基づき作成したものであり、隣接地との境界は示されていない場合があります。
※本図面は行政書士法の規定に基づき作成したものであり、図面に基づき図面であり、図面を個人で転写複製してはならないこととされています。複製転写した場合は、その責任を負いかねませんので、その旨ご了承ください。

所在・地番	津市白山町三ヶ野宇長橋口560-5、560-7 津市中村町宇安場谷802-1		
都市計画の区分	都市計画区域外	縮尺	1/800
申請人	株式会社 UMEDA		
作成者	行政書士 行岡 聖洋 (令和3年4月24日作製)		

施設全体配置図



● 検査方法 (以下の1種類にわたって検査を実施する。)

- 目視による検査
- 測厚による検査

○ 検査基準

当該施設が対象となる以外の建築物等については、事前に進入基準に適合を確認し、進入を決定する。当該に適合するランプの場合、当該建築物等物については、進入がないよう注意する。

当該一、取り出しができない種類の廃棄物が混入している場合、事前に注意するようにも注意を要する。当該して汚れた物、腐敗性廃棄物が付着した物など異なる種類の廃棄物は、取り出す。

● 検査方法 (以下の1種類にわたって検査を実施する。)

- 目視による検査
- 測厚による検査

○ 検査基準

当該施設が対象となる以外の建築物等については、事前に進入基準に適合を確認し、進入を決定する。当該に適合するランプの場合、当該建築物等物については、進入がないよう注意する。

当該一、取り出しができない種類の廃棄物が混入している場合、事前に注意するようにも注意を要する。当該して汚れた物、腐敗性廃棄物が付着した物など異なる種類の廃棄物は、取り出す。

● 凡例

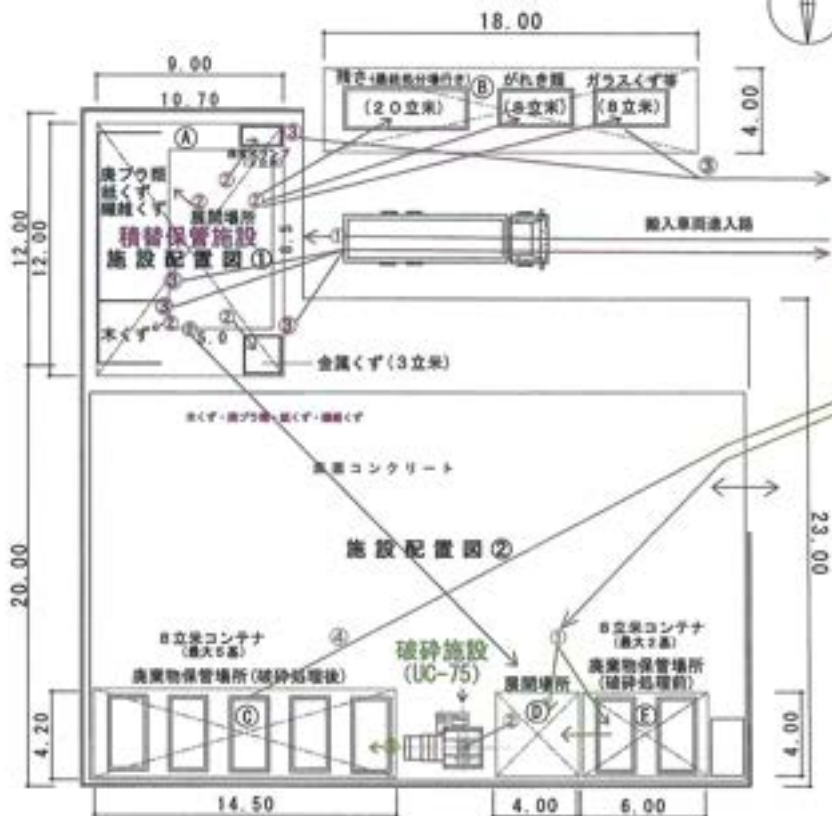
- 小型消火器
- 排水等排水方向

※この図面は、建築廃棄物処理法の施行に係る事業計画に基づき作成したものであり、隣接地との規定した境界を示すものではありません。また、土地の加工についても実際の土地の形状、地質、地盤高の条件により、施工計画に影響を及ぼす可能性があります。

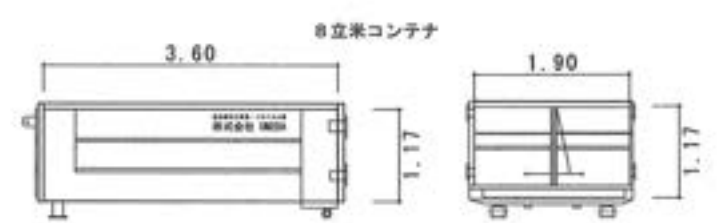
所在・地番	津市白山町三ヶ野字長樋口560-5、560-7 津市中村町字安場谷802-1
都市計画の区分	都市計画区域外 縮尺 1/400
申請人	株式会社 UNEDA
作成者	行政書士 行田 聖 洋 (令和3年9月10日作成)

(単位：メートル)

保管場所のエリアと動線：茶色の数字、矢印で表示
 中間処理のエリアと動線：緑色の数字、矢印で表示



- 【求積】
 ① 12.00 × 9.00 = 108.00 平米
 (内、展開場所 = 42.5 平米)
 ② 18.00 × 4.00 = 72.00 平米
- 【求積】
 ③ 14.50 × 4.20 = 60.90 平米
 ④ 4.00 × 4.00 = 16.00 平米
 ⑤ 4.00 × 6.00 = 24.00 平米

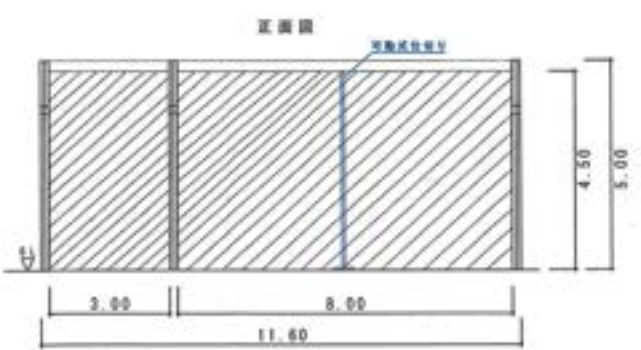
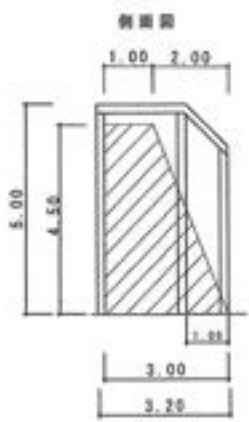
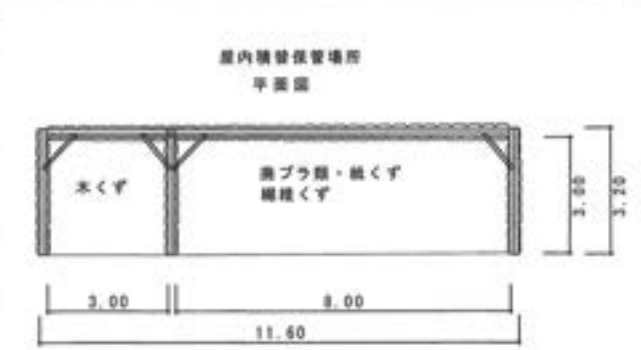
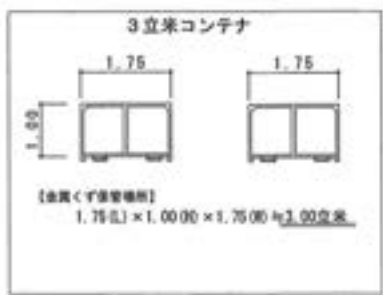
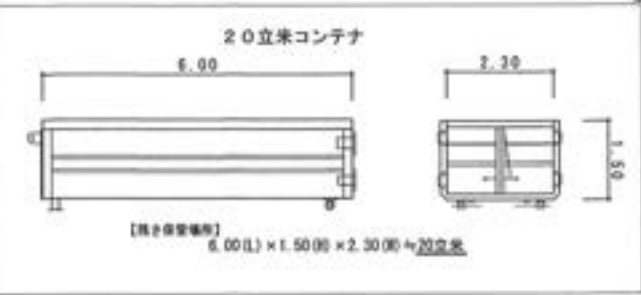
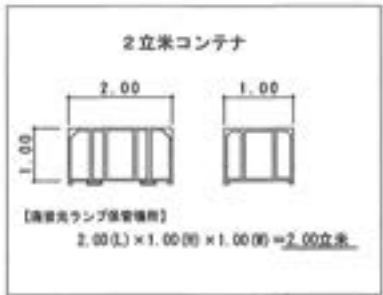


【破砕前保管場所】
 3.60(L) × 1.17(H) × 1.90(W) × 8.00立米
 8.00 × 2基 (最大) = 16.00立米

【破砕後保管場所】
 3.60(L) × 1.17(H) × 1.90(W) × 8.00立米
 8.00 × 5基 (最大) = 40.00立米

図面名	施設配置図①・②
縮尺	1/250
申請人	株式会社UMEDA
作成者	行政書士 行岡 聖洋 (令和2年11月1日作成)

(単位・メートル)



【求積】
 木くず
 1.00(L) × 4.50(H) × 3.00(W) = 13.5
 2.00(L) × 4.50(H) × 3.00(W) × 2 = 13.5
 13.5 + 13.5 = 27.00立米

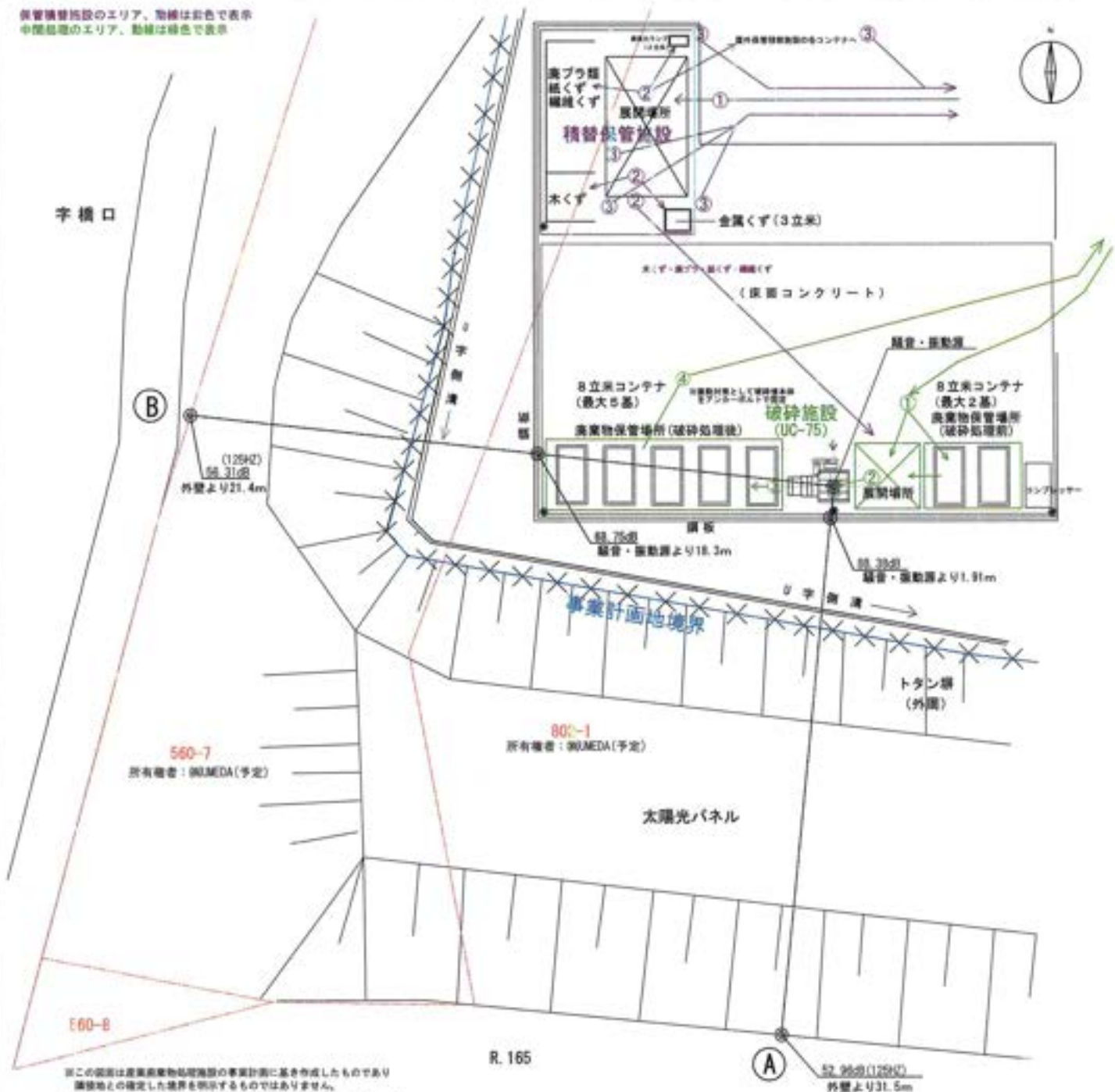
【求積】
 廃プラスチック類
 繊維くず
 1.00(L) × 4.50(H) × 8.00(W) = 36.00
 2.00(L) × 4.50(H) × 8.00(W) × 2 = 36.00
 36.00 + 36.00 = 72.00立米

内訳
 廃プラスチック類 24.00立米
 繊維くず 24.00立米
 木くず 27.00立米

図面名	施設配置図
縮尺	1/125
申請人	株式会社UMEDA
作成者	行政書士 行岡 聖洋 (令和2年11月1日作成)

(単位・メートル)

騒音・振動測定位置見取図



騒音予測計算書

条件
 本機の機側1m地点における最大騒音値(定常作業時) = 94 [dB]
 以下、r1 = 機側1mにおける騒音値 = 94 [dB]
 r2 = 騒音源から測点までの距離 (m)
 距離減衰式をTL = 20.00 (r2 / r1) として計算
 透音板 (鋼板1ミリ厚) の透音係数m [kg/m²] = 8.2 (kg/m²)
 また、透過損失による減衰式を TL = 20.00 (f × m / 131.8) - 10.00 (ln (1 + f × m / 131.8)) として計算
 周波数125 [Hz]、250 [Hz]、500 [Hz] について算出

【測点①】
 94[dB] - 20Log (1.91/1) = 88.38 [dB]
 (1) f = 125 [Hz]
 TL = 20Log (125 × 8.2 / 131.8) - 10Log (ln (1 + 125 × 8.2 / 131.8)) = 11.08 [dB]
 88.38 - 11.08 = 77.30 [dB]
 77.30[dB] - 20Log (31.5 / 1.91) = 52.86 [dB]

(2) f = 250 [Hz]
 TL = 20Log (250 × 8.2 / 131.8) - 10Log (ln (1 + 250 × 8.2 / 131.8)) = 14.88 [dB]
 88.38 - 14.88 = 73.50 [dB]
 73.50[dB] - 20Log (31.5 / 1.91) = 49.18 [dB]

(3) f = 500 [Hz]
 TL = 20Log (500 × 8.2 / 131.8) - 10Log (ln (1 + 500 × 8.2 / 131.8)) = 19.05 [dB]
 88.38 - 19.05 = 69.33 [dB]
 69.33[dB] - 20Log (31.5 / 1.91) = 44.99 [dB]

【測点②】
 94[dB] - 20Log (18.30/1) = 68.75 [dB]
 (1) f = 125 [Hz]
 TL = 20Log (125 × 8.2 / 131.8) - 10Log (ln (1 + 125 × 8.2 / 131.8)) = 11.08 [dB]
 68.75 - 11.08 = 57.67 [dB]
 57.67[dB] - 20Log (21.4 / 18.3) = 56.21 [dB]

(2) f = 250 [Hz]
 TL = 20Log (250 × 8.2 / 131.8) - 10Log (ln (1 + 250 × 8.2 / 131.8)) = 14.88 [dB]
 68.75 - 14.88 = 53.87 [dB]
 53.87[dB] - 20Log (21.4 / 18.3) = 52.51 [dB]

(3) f = 500 [Hz]
 TL = 20Log (500 × 8.2 / 131.8) - 10Log (ln (1 + 500 × 8.2 / 131.8)) = 19.05 [dB]
 68.75 - 19.05 = 49.70 [dB]
 49.70[dB] - 20Log (21.4 / 18.3) = 48.24 [dB]

振動予測計算書
 (振動予測計算においては、測点別は別表します)

条件
 本機の機側1m地点における最大振動値(定常作業時) = 65 [dB]
 以下、r1 = 機側1mにおける振動値 = 65.00 [dB]
 r2 = 振動源から測点までの距離33.41 [m]
 距離減衰式をTL = 20.00 (r2 / r1) として計算

【測点③】 65.00 - 20.00 (33.41/1) = 24.52 [dB]

図面名	騒音・振動測定位置見取図
縮尺	1/250
申請人	株式会社UMEDA
作成者	行政書士 行岡 聖 洋 (R.3.9.10作成)

※この図面は産業廃棄物処理施設の事業計画に基づき作成したものであり、隣接地との確定した境界を示すものではありません。
 ※本図面の土地の形状と実際の土地の形状が多少異なる可能性があります。また、土地の加工についても実際の土地の形状、地質、地盤高等の条件により、施工計画に影響を及ぼす可能性があります。

産業廃棄物処理における騒音・振動値については、廃棄物を搬送する際に業務を使用する程度であり、騒音値に比べて使用頻度が低く、影響が軽微であると考えられます。従って、隣接地による予測値をもって参照します。